

研究活動報告

日本人口学会関東・東北地域部会1999年度第1回研究報告会

日本人口学会関東・東北地域部会の1999年度第1回研究報告会は1999年12月18日(土)、東洋大学白山校舎スカイホール(東京都文京区)にて開催された。本会は高橋重郷担当理事(国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長)により企画されたもので、石南國・日本人口学会会長による開会の挨拶に続き、小苺米清弘座長(東洋大学経済学部教授)により、下記4題の報告が行われた。

- 第1報告 「日本における女子の結婚、出産、育児
- ハザード分析を中心に -」
和田光平(中央大学)
- 第2報告 「バツ・ワード・モデル再考
- 子ども需要の所得及び価格弾力性の測定 -」
加藤久和(電力中央研究所)
- 第3報告 「なぜ公務員の出生力が高いのか
- 出生力に対する公務員就業環境効果の分析 -」
新谷由里子(国立社会保障・人口問題研究所)
- 第4報告 「1990年代における女子のパートナーシップ変容
- ‘婚姻同居型’から‘非婚非同居型’へ -」
岩澤美帆(国立社会保障・人口問題研究所)

上記報告はいずれも近年のわが国の出生力低下に関連した実証分析であり、それぞれに分析の水準が高く、今後のわが国の出生力の動向および対策について考える上でも示唆に富むものであった。最後に高橋理事より講評があった。本会には約30人の参加者があり大変盛会であった。会の運営に尽力された小苺米教授に感謝する次第である。(佐藤龍三郎記)

第72回日本社会学会大会

第72回日本社会学会大会は、上智大学において10月10日~11日の両日開催された。今回から報告申込時に報告原稿の提出が義務づけられたため、報告数は前回より減ったが、それでも一般研究報告・テーマセッション合わせて250本以上の報告があった。

今回は人口部会が2部会設定され、うち「人口1」部会の司会を本研究所の阿藤誠副所長が担当した。また本研究所の職員5名が、以下のような多様な部会で報告を行った。

「スウェーデンでは子供がいることがカップル関係にどう影響するか」「スウェーデンの家庭における労働と経済調査」データを中心として、釜野さおり(人口動向研究部)、家族1部会。

「ジェンダーから見た福祉国家類型論再考 労働市場における男女間格差を通して」、白波瀬佐和子(社会保障応用分析研究部)、社会政策研究のフロンティア(テーマセッション)。